Sakaide,Kagawa

坂出市の概要

01 人口が約5万人

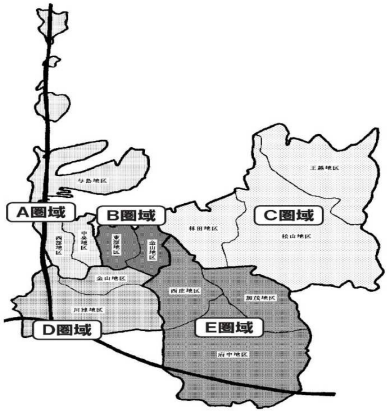
02 瀬戸大橋の四国側の玄関口
≪3つの島(橋でつながっている)がある≫

03 日常生活圏域は5圏域

04 高齢化率が約35%
≪市街中心部は33.8%、市街から離れると38.4%となり、地域差がみられる≫

05 関係機関からの認知症に関する相談件数の増加

「チームオレンジ」の結成を通して
認知症のかたを支える地域づくりを行いたい



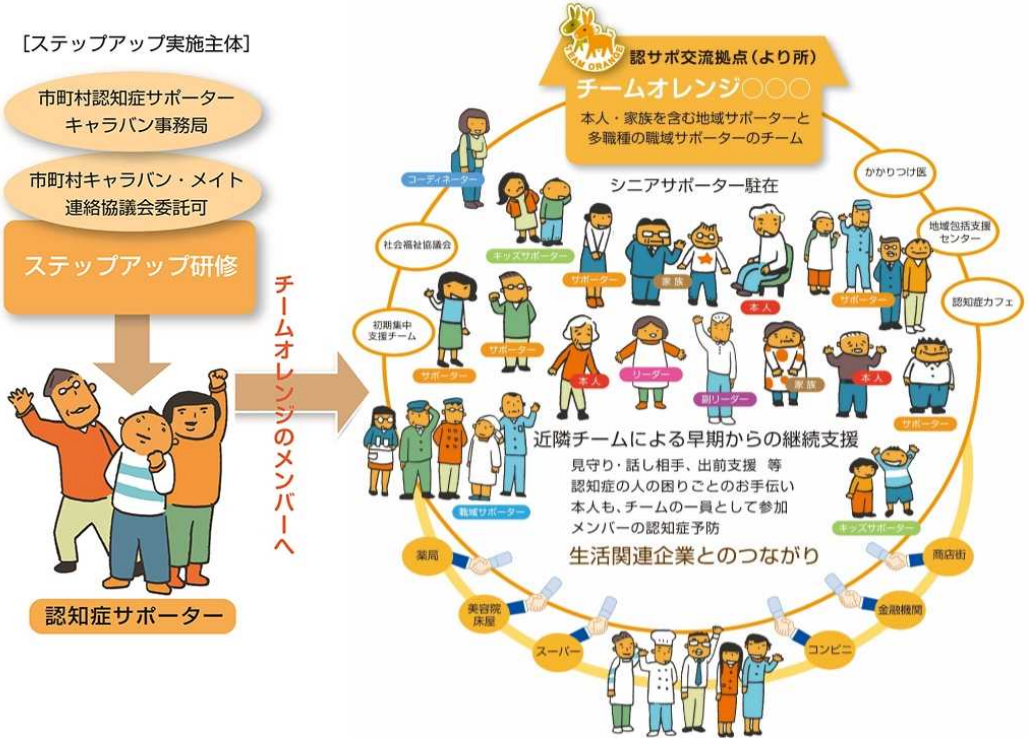
「チームオレンジ」とは

本人、家族、認知症サポーター等が中心となって、認知症のかたの見守りや支援を行う活動です。本人もメンバーとして参加します。

01 認知症のかたや家族の困りごとに対する相談や支援

02 認知症のかたのやりたいことのお手伝い

03 認知症のかたが活躍できる場を提供



チームオレンジ の3つの類型

第1類型	第2類型	第3類型
共生志向の標準タイプ	既存拠点活用タイプ	拠点を設置しない個別支援型
活動拠点を設置して活動 （ex.市役所、公民館）	**既にある地域資源を活用** （ex.認知症カフェ、介護予防教室）	**拠点をつくらずに支援を行う** （ex.健幸ウォーキング、自宅訪問）

坂出市の取組み

01 認知症のかたや
その家族が交流できる場

認知症カフェ
「さかいでオレンジかふぇ」

02 認知症のかたなど
地域住民が参加できる場

さかいで健幸まつり
&介護の日

03 認知症への理解を
深め、啓発する活動

世界アルツハイマー
デー in さかいで

04 認知症への理解を深め
地域でともに暮らしていく
方法を学ぶ講座

認知症サポーター養成講座
認知症サポーターステップ
アップ講座
市民後見人養成講座

実績(R7年2月末時点)

01 認知症サポーター
養成講座(計5,004名)

02 認知症サポーター
ステップアップ講座
(計88名)

03 市民後見人養成講座
(計32名)

目　的

認知症のかたや家族が安心して暮らせる地域づくり

現　状

01 ▷▷ 運転免許証返納に伴う家族間のトラブルに対しての相談の増加
02 ▷▷ ものとられ妄想による相談の増加
03 ▷▷ 徘徊の相談件数の増加
04 ▷▷ 新聞だまりの連絡の増加
05 ▷▷ 虐待件数の増加
06 ▷▷ 認知症初期集中支援チームの相談件数の減少

コロナ渦で施策が一部制限された結果、地域社会の支え合い機能の衰退が顕在化

目　標

01 ▷▷ 認知症のかたや家族が相談できる場所や気軽に利用できる場所をつくる
02 ▷▷ 認知症になっても役割をもち、そのかたらしい生活が行えるようにする
03 ▷▷ 地域住民の認知症への理解が深まり、適切な支援を理解することができる
04 ▷▷ 地域住民が、認知症のかた等と自らのできる範囲内で支援や活動を行っていく

学生にお願いしたいこと

新しい視点

01 理論的な発想
02 クリエイティブな発想

地域力の再生

01 地域住民のもつ経験・実践
02 地域のもつ潜在的な力

新たな価値

01 坂出市の課題を解決する新たな認知症施策
02 新たな地域資源の発掘

『ゼロベース』から、学生・住民とともに高齢者を支える地域づくりを行っていきたい

学生とのスケジュール

5月　オンライン会議(事業説明)

6月　オンライン会議(課題分析)

7月　オンライン会議
(フィールドワーク実施前の打ち合わせ)

8～9月　フィールドワーク実施
(チームオレンジの参加・交流)

10～11月　オンライン会議
(活動の振り返り・課題分析)

12月　オンライン会議
(フィールドワーク実施前の打ち合わせ)

1～2月　フィールドワーク実施
(チームオレンジの参加・交流)

3月　オンライン会議(最終報告)

住民とのスケジュール

①チームオレンジ(西部つどいの家)

▶白金町一丁目3番38号　▸▸坂出小学校の近く

②チームオレンジ(東部老人いこいの家)

▶久米町一丁目17番11号　▸▸消防本部の近く

③チームオレンジ(林田公民館・松山公民館)

▶林田町636番地5　▸▸林田小学校の近く
▶高屋町1100番地1　▸▸松山小学校の近く

④チームオレンジ(南部公民館)

▶池園町3番46号　▸▸坂出商業高校の近く

⑤チームオレンジ(加茂公民館)

▶加茂町645番地7　▸▸加茂小学校の近く

▸▸ 5圏域を拠点として活動を行う

▸▸ 各圏域で月1回程度の開催を予定